

聞き書き その2 [イナゴとり・落穂拾い]

かほく市七窪在住の83歳の方(前職漁船員)に聞いた。「国民学校には良い思い出は一つも残っていない。一番大事な頃は勤労働員に明け暮れして、いつも腹を空かせていた。

木製飛行機工場の存在は覚えているが軍事機密で工場への立ち入りは禁止されており見ることができなかった。話せることがなにも無いので残念です。戦時中にイナゴや落穂拾いのノルマがあり空き腹で田を回って歩いたことが辛かった。今は極楽です、しかし今の政府は、きなぐさい感じがしてならない。一遍戦時体験をさせてやりたい。」

聞き書き その3 [木製戦車・兵隊と同居の学校]

かほく市木津在住の78歳の方(前建築会社勤務)に聞いた。「国民学校も戦争末期には海岸防衛の陸軍部隊に半分占拠され厨房から旨そうな匂いがしていた。

松浜と遠塚の間に海岸防衛の戦車があり、よく見ると中は空っぽの木製戦車であった。

又、終戦時に金沢航空機木津工場責任者の肥田中尉(24歳)自決の時に介錯した工具二人を皆で指さして見た覚えがある。「戦車に爆弾を担いで飛び込む肉弾攻撃訓練用」

聞き書き その4 [軍馬の馬草刈り]

かほく市木津在住の81歳の方(前会社員)に聞いた。「馬草刈りノルマは、たちの悪い上級生は自分のノルマ量を下級生にやらせていた。又、海岸防衛の兵隊は戸別に味噌、醤油、塩を求めて訪問しており、「コンナことで戦争に勝てるがカイネ」との母のつぶやきが記憶にある。「小学生のノルマ三日間で干し草200貫、約750K」

聞き書き その6 [戦中の銭湯]

かほく市木津在住の80歳台の方(匿名希望)

戦時中燃料不足で今のように自家用風呂はなく冬は行水もできず「浅草風呂」に行った。浅草風呂とは「湯槽が浅くドボスの臭いが強烈な不衛生極まる風呂の略」 幼児がウンコをしたら付近をケロリン湯桶で2、3パイかきだして入浴するのが常であった。

妊娠中の母に連れられ浜つたいに高松の海近くの銭湯にはいったが清潔で肩まで浸かることが出来、かけ湯もたっぷり出るため極楽と思ったことが忘れられない。

聞き書き その7 [虱退治]

高松北町在住の87歳の方に聞いた。「昭和3年生まれで尋常小学校6年で義務教育を修了した。その後、石川織物一工場で働く、昭和19年から厚生年金に加入したので無年金を免れ今は幸せです。

戦中の思い出として弟が少年船員として山下汽船に徴用され戦時輸送に従事しており船が多く撃沈され兵隊よりも戦死率が高かった中で無事帰還できたことが一番嬉しかった。

嫌な思い出としては虱退治が毎日の日課であり戦争末期は風呂も浅草風呂で娘心に清潔な風呂にシャボンを使って入りたいのが願だった。